

初秋 随想

若山 袁志子

うちつづきりまなも 遠方書 白者くして  
家々の声あははにきこゆ

秋づくや すが群れごとふ 椋鳥の  
ささし 鳴く声 今も ときこゆ

わが男の子 学坐すれば 健かに明る  
くて 奉仕の 聲 秘のそしむ

赤城山 笠山 回顔

軍國のて 女にきこゆし 双頬を 染め  
て 奉仕の 草刈りきこゆ